

氏名	宮 宅 健 司
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲 第 1290 号
学位授与の日付	平成6年3月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学（二）専攻 （学位規則第4条第1項該当）
学位論文題目	CD30 antigen in Non-Hodgkin's lymphoma （非ホジキンリンパ腫におけるCD30抗原の発現について）
論文審査委員	教授 岡田 茂 教授 中山 睿一 教授 原田 実根

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

CD30抗原（Ki-1抗原）のリンパ系腫瘍及び良性反応性疾患における発現を単クローン抗体を用いて免疫組織化学的に検討した。同抗原はホジキン病の18例中17例(94%)、全3例の未分化大細胞リンパ腫（100%）、T細胞リンパ腫の52例中11例(21%)、B細胞リンパ腫の153例中13例（8%）、悪性組織球腫の3例中2例、形質細胞腫の4例中1例及び種々の反応性疾患で陽性だった。T細胞リンパ腫はB細胞リンパ腫より有意に陽性率が高かった。非ホジキンリンパ腫全体と大細胞型のB細胞リンパ腫においてCD30抗原発現と予後には関連はなかったが、T細胞リンパ腫の高悪性度群（改訂Kiel分類）においては陽性例は予後良好であった。我々は“Ki-1リンパ腫”あるいは“Ki-1陽性リンパ腫”を未分化大細胞リンパ球と同義に使用するのは適当でないを考える。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、CD30抗原（Ki-1抗原）のリンパ系腫瘍及び良性反応性疾患における発現を単クローン抗体を用いて免疫組織化学的に検討したものである。その結果、T細胞リンパ腫におけるKi-1陽性例の予後、T、Bリンパ腫における陽性細胞について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。